

モラルサイエンス研究会（令和2年11月4日）発表要旨

ポスト・コロナ社会の再郊外化：スコーピング研究

生命環境研究室

客員研究員 古川 範和

本研究では、新型コロナウイルスの蔓延によりソーシャルディスタンスが取られるようになった世界中の都市において、テレワーカー達が郊外へ流出するという潮流が生まれているか否かを確認するという目的のもと、G7の国々の主要都市に関してインターネット上でアクセス可能な資料を用いて調査した。その結果、イタリアを除く全ての調査対象国で、大都市の人々が郊外へ流出している、もしくは流出する準備を整えていること、また実際にテレワークが人々の移住を促す重要な要因となっているという事実を突き止めることができた。今後、同様の調査を他の先進国に関しても行うことが推奨される一方、人々の都市脱出が長期的に継続するか否かは、ワクチンの開発や配布にかかる時間、今後におけるウイルスの変異、そしてテレワークがどこまで浸透し続けるかなど、数多くの条件に依拠するため、将来的に最新の情報を用いた調査を続けていく必要があるだろう。